

ナイスケアだより

第155号
令和7年4月発行

先日介護事業者の設立記念祝賀会に招待され、30年以上前に介護現場で一緒に働いていた方々に会う機会がありました。皆さん介護の仕事を継続しており、それぞれの職場で重要な役割に着き活躍をされていました。当時の介護現場の厳しい環境など懐かしい話で盛り上がりました。

私は平成2年に認知症専門のデイサービスから介護の仕事を始めました。やる気と体力が取り柄の職員で病気や介護の知識はほとんどない状況でした。当時の施設長が大変勉強熱心な方で、福祉・介護の理念について毎晩勉強会を行いました。仕事が終わって17時30分から始まり遅い時は22時過ぎまで続けました。

「利用者の尊厳とは」「利用者の個別性と自己決定とは」「利用者の自立支援とは」など理念と哲学的な内容が多く、難しい質問にドキドキしながら答えていたことを覚えています。こういった理念を実際の現場で実践することが私の仕事の目標と取り組んでいました。理念的な内容を理解することで「社会に役立っている」と意識が生まれやりがいに繋がりました。こういった学びが今でも財産になっていると感じます。その時の恩師の勉強会には今でも参加し貴重な時間を過ごさせていただいています。

若い人に理念や哲学的な話はあまり好まれないようですが、伝える機会があれば話し介護の仕事に活かしてもらいたいと思っています。



有限会社ナイスケア 代表取締役 塩川 隆史

～有事～

3月28日、日本時間午後3時20分ごろミャンマー中部を震源とする大規模地震が発生しました。死者行方不明者合わせ数千人にも上る甚大な被害が出ているようで、隣国タイの首都バンコクでもビルが崩壊するなど被害が広がっています。毎日の震災報道にあらためて自然の脅威を感じ、震災現場より一人でも多くの生命が救出されるよう祈るばかりです。

また、偶然ながらその日の夕刻より社内で避難訓練(防災訓練)が実施され、具体的に地域における最寄りの避難場所を確認したりしました。そんな日に行われたことは私にとって意義深いものになりました。他の多くの参加者においても同様だったと思います。

あらためて、ここ東京においても南海トラフ・首都圏直下型の地震はかなりの確率で近い将来起こりうると言われています。いたずらに騒ぎ立て、悲嘆することはなくても、正しく恐れることは必要かと思います。

まずは有事の際に自分の生命を、そして家族、友人、知人の生命を守れるよう、家族間や友人間との約束事ができたらいいですね！

福原 靖彦